

接続語

今回の学習のポイント

- ① 「接続詞」「接続助詞」のはたらき
- ② 「接続表現」を理解する

「接続詞」「接続助詞」のはたらき

「接続詞」「接続助詞」とは、文と文をつなぐ働きをする言葉です。単語と単語、文節と文節（第七回「文法」文の構造）、段落と段落をつなぐ働きもあります。「接続詞」「接続助詞」は、文章の論理（文のつながり・文脈）によって用いられます。これらを正しく使用できるようになると、「接続詞」や「接続助詞」をヒントにして、文章の論理（文のつながり・文脈）や文章構成が理解できるようになります。

さて、次に「接続詞」「接続助詞」の主なものをまとめました。どのような文脈で使われるのか、その違いを押さえながら的確に理解しましょう。

■話題を「展開」する接続詞

順接 <small>（原因・理由から、順当な結果へと導く）</small>	【例文】 毎日朝食を食べる。すると、体調がよい。 <small>前文からたらす順当な結果</small>
逆接 <small>（前の内容から、予想と異なる事柄を導く）</small>	【例文】 「継続は力なり」という。ところが、実践が難しい。 <small>前文から予想されること異なる</small>

■物事を「列挙」する接続詞

並列・累加 <small>（対等の関係で並べたり、詳しく述べたりする）</small>	【例文】 雨が激しく降っている。そのうえ、風まで強く吹いてきた。 <small>前文と同様によくないことが加わった</small>
対比・選択 <small>（物事を比較したり、選択したりする）</small>	【例文】 肉料理、あるいは、魚料理 <small>どちらか選べばいい</small> を選べい。 または、あるいは、それとも、一方、これに対して

「接続表現」が示す内容を理解する

次の文は、接続表現の文例です。上下の文は同じですが、接続詞や接続助詞によって伝わる内容に違いが出てきます。接続詞や接続助詞を適切に使うことで、話し手（書き手）の感情や意志、主観的な判断などが、聞き手（読み手）に伝わりやすくなります。

必死に練習した。^{順接}だから、二位になった。↓ うれしき
 必死に練習した。^{逆接}しかし、二位になった。↓ 悔しさ

気持はわかります。^{逆接}しかし、無理です。
 ↓ 前文を客観的にとらえる 無慈悲
 気持はわかります。^{逆接}けれども、無理です。
 ↓ 前文の内容に配慮する 困惑

^{順接の接続助詞}電車が遅れたから、遅刻した。↓ 主観的な判断
^{逆接の接続助詞}電車が遅れたので、遅刻した。↓ 客観的な判断

まとめ

「だから」を含む接続詞に、「それだから」「これだから」というものがあります。「それ」が「だから」に付くと、「本当に騒がしい。それだから、困る。」のように、前件の原因・理由を強調し、話し手にとっては好ましくないというニュアンスが加わります。また、「これだから」だと、「注意しても笑ってごまかす。これだから、しかたがない。」というように、理解しがたい状態・性質なので、あきらめるしかないというニュアンスを伴うようになります。

「接続詞」「接続助詞」は、語句や文をつなげるだけでなく、話し手の微妙な心情までも表す興味深い言葉です。ぜひ、これらの言葉を日常で活用し、言語生活を豊かにしていきましょう。



7月14日 2020年 11月 長瀬の【語】